

# 魔王様と7人 の勇者達

黒斬行弘

## 魔王様と7人の勇者達

---

「よく来たな愚民ども！余が魔界を統べる魔王、ルシ・・・」

「いや、やっぱり俺の名前が先だ！」

「はあああ？、お前この道中で何かの役にたったか？」

「まてまて、ここは間をとって私が先に名乗ろう」

ふう、またである。さっきから余が名乗ろうとするとこれだ。

あ、自己紹介が遅れたな。余が、この広大な魔界帝国を支配する真の王者魔王である。うむ、楽にして良いぞよ。

さて、今日も懲りずに人間どものパーティーが余を倒さんと参ったのだが、何と、誰が一番最初に魔王である余に名を名乗るかで争い始めたのじゃ。まあ、余ほどの有名人になれば、我先に名前を覚えてもらいたい気持ちもわからんではないがな！

あと、誰が取り決めたのか忘れたが、魔王と勇者が対決する時には、"お互いに名乗ってから"という取り決めがある。なんでも歴史の授業の時に、誰が魔王と戦ったのかの記録がわからなくなるのだそうだ。これは魔界、人間界で共に採用されたので、嫌でも従わねばならん。

とはいえ、そろそろ誰が最初に名乗るのか決めてほしい・・・。

「あーこれこれ、お前たちの名前は全員分ちゃんと余の胸に刻み込んでおくから、けんかせずに仲良く自己紹介しないさい。」

どうじゃ！この貫禄と寛大さ！そこらへんの中ボスクラスのやつらだとうちはいかんぞ？余の配下の「魔神ゼスト」あたりだったら、今頃貴様らは消しくずじゃ！

「あー？うっせえーんだよじじい！」

「今大事な話してんだから黙ってるよ」

「たまにいるよな、全然空気読まない奴www」

・・・・・・・・・・。

なんじゃとおおおおおお！さっきから黙って聞いておれば良い気になりおって！余が本気を出したら、貴様らのような連携ゼロの人間共なんか一撃なのじゃ！喰らえ超必殺魔法スーパー・デラックス・スペシャルサンファーアーーーーーイs・・・

# 7人の勇者「必殺ドリームソー—————ド！」

」

ぐほっつっふうおおおおおおおおお！その瞬間わしの体は激しい衝撃と共に空中をまった。なにそのださい必殺技名……。あと何で急に連帯感アップしてるの？ごおおん！という音と共に余の体は地面に叩きつけられていた。

「なんだこいつ？急にキレたんですけどw」

「あれじゃね？切れやすい現代っ子じゃねーの？」

「魔王が現在っ子とか何それウケるんだけどwww」

くっ！こんなふざけた者共に負けるとは……。悔しいのじゃ！そもそも、あれだけ喧嘩してたのに、余が攻撃した途端息ぴったりで攻撃してくるとかなんなの！？

「さてと、ちょっと前後しちゃったけど名前言っとかなきゃな」

「じゃあもう年齢順で言っちゃおう？」

「あーそれいいね！そうしようぜ」

そう言いながら勇者一行はそれぞれ名乗っていった。いくらふざけた勇者とは言え、ルールはルールなので、余も名乗らなければならないだろう。勇者達よ！誇るが良い！この最強最悪の魔王を一撃で倒したのだからな！そして伝えるが良い！我が恐怖の名を！

「我が名は、ルシ……………あれ？」

余が最後の力を振り絞って名前を叫ぼうと前を見たら誰も居なくなっていた。

「あれれええええええええ？（泣）」

これが、史上最悪(自称)と恐れられた余の最後であった。余、まだ名前名乗ってなかったのに……。

-完-